

WASEDA

MECHANICAL

ENGINEERING

第42号  
APR. 2015

Newsl e t t e r

2015年(平成27年)4月1日発行

### 博士課程教育リーディングプログラム

## 実体情報学博士プログラム ～システム・ネクストリーダー育成～

実体情報学博士プログラム プログラムコーディネーター  
創造理工学部長・研究科長  
総合機械工学科教授 菅野重樹



文部科学省の事業である「博士課程教育リーディングプログラム」は、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備えたグローバルリーダーへと導くことを目的とした博士課程5年一貫教育（修士2年間+博士3年間）のプログラムです。早稲田大学では、平成24年度に先進理工学研究科を母体とした「リーディング理工学博士プログラム～エネルギー・ネクストリーダー育成～」が採択されました。それに続き、平成25年度に理工学術院の全研究科の機械系関連専攻と情報系関連専攻が協力して提案した「実体情報学博士プログラム～システム・ネクストリーダー育成～」が採択されました。

実体情報学(Embodiment Informatics)とは、情報技術が持つコンピューティングペネフィット（計算の効果）、通信技術が持つネットワークペネフィット（資源共有の効果）、機械技術が持つボディペネフィット（実在と力の効果）の複合的価値創出を指向する中で、生産、医療、環境といった重要分野におけるアプリケーションペネフィット（問題を解くこと自体の直接的価値）を導くことを目指した、早稲田から発信する新しい学問・教育体系です。

日本の「ものづくり」は世界に誇れる技術です。自動車、鉄道、生産設備などあらゆる実体をもつシステムである「もの」を創り上げる力があります。一方で、Google、Apple、KUKAといった世界を先導する企業が欧米から多く生まれています。この背景には、イノベーションを見出す先見力、幅広い分野の先端技術をインテグレーションする構想力、リーダーシップを發揮する突破力の3つの力を兼ね備えた人材が、日本の「ものづくり」の現場で必ずしも育っていないことが指摘できます。特に、先見力と構想力は、機械システム分野と情報・通信分野を基盤として、新しい医療・福祉、製造、社会インフラ整備を展開するために必須の力であり、この分野の人材育成は、機械システムと情報・通信を支える研究教育者と企業人が取り組むべき最優先課題であると言えるでしょう。ここで重要な視点が、いかに機械と情報・通信とを結び付けるかです。機械と情報・通信とは「ものづくり」の基盤技術です。そのために多くの大学や研究機関において、これまで情報・通信系と機械系との融合や交流が試みられてきました。しかし、両者を単に組み合

## CONTENTS

博士課程教育リーディングプログラム	1~2
永田勝也先生退職のお知らせ	2
好評であった単位取り直し講座	3
機械科学・航空学科ペアレンツデー	3~4
学生から見た研究室の紹介 藤江研究室、川本研究室	5~6
ホームカミングデーの報告 工場見学	7
浅川先生で退職記念行事を振り返って	8
エコランプロジェクトTakumi 紹介 ROBOSTEP Waseda Formula Project (WFP) WASA鳥人間 活動報告	9~11
知的ネットワーク	11
機友会活動の原点と更なる発展に向けて 機友会ゴルフコンペ開催報告	12
秋の叙勲で、瑞寶小綬章を受章 ITS*功労者表彰を受賞して	13
第34回早大モビリティシンポジウム開催報告	14
井口 信洋名誉教授のご逝去を悼んで	15
浅井さん（機友会事務局）本当に永い 間有難うございました	15
オリーブ・佐々木洋子奨学金設立について	16
齋藤 孟先生との思い出	16
会員訃報・事務局	17
事務局からのお知らせ	18

わせただけでは、イノベーションやインテグレーションは生まれません。プログラミングやネットワークを学んできた情報・通信系学部出身者には機械系の設計感覚を体得させ、逆に設計や制御を学んできた機械系学部出身者には情報・通信系の方法論を体得させるなど、両者のセンスを一体化した新しい教育・研究スタイルが求められているのです。

例えば、手術支援システムを構築するためには、高精度なロボット技術とヒューマンインターフェース技術が必要ですが、そこにネットワークや高速データ処理の情報系方法論を導入できれば、医療系ビッグデータの管理や瞬間的な治療手技の提示が可能となり、新しい手術支援システムが実現できます。これこそが実体情報学です。実体情報学の鍛錬は、基盤技術の修得の上で行うことによります。学部卒業研究を終えて大学院に進学するときに、この実体情報学に飛び込むことで、先見力、構想力、突破力の強い力が身に付くのです。

この鍛錬の場も重要です。個々人が独立して研究していたのでは、実体情報学の新しい発想は生まれません。そこで、実体情報学では、皆が集い、刺激を受け合う研鑽の場として、「工房」を用意しました。学生は指導教員の研究室から独立した共通の学舎「工房」に身をおいて、バックグラウンドを異なる学生同士が空間を共有して日々の学究生活を送ります。工房では、国内外の招聘講師による質の高いコロキュームを定期的に開催するとともに、その議論の延長を楽しむティータイムミーティングを設定するなど、教



工房のコンセプト

工房のイメージ

員と学生が積極的に議論できる機会を提供します。さらに、異分野の方法論の理解を体験的に進められるように、機械系・情報系の学生達がさまざまなグループワークを提案・実行できる仕掛けを用意し、お互いが持つ方法論の強みを感じながら幅広い問題解決パラダイムを体得できる場にしています。学問的刺激に満ちた「工房」環境の中で、教員と学生そして学生同士が

互いのアイデア・研究内容について「透明」かつ「インタラクティブ」な状態を作ることで、参加学生の研鑽への意識が高まり、異分野の融合研究が容易に創発、開始されることを期待しています。

日本独自かつ世界に誇れる「ものづくり」を早稲田の実体情報学「工房」から発信したいと考えています。

以上

## 永田勝也先生退職のお知らせ

本年3月31日で永田勝也先生が退職されました。

先生は1969年に助手に嘱任され、その後助教授、教授と大学一筋に46年間教育、研究に従事されました。1981年には恩師である小泉先生が逝去されました。研究の面で小泉先生の分野も引継いでこられました。長い間お世話になり有難うございました。

(オリーブ記)

# 好評であった単位取り直し講座

機友会会長 浅川基男

現役バリバリOB向けの「単位取り直し講座」は、まず昨年11月22日(土)「機械材料学」から始まった。参加者は12名とやや少なかったが、3名の講師(鈴木先生、浅川)による13時から18時講義に引き続き、18時以降

の堂谷先生も交えた懇親会で教員と現役バリバリの卒業生との質問を兼ねた交流会が始まった。大方の参加者からは「先生方やOBと親しく話せた」、「同じ大学の先生なので気軽に質問できた」、「次回の講座も参加したい」と

好評であった。2015年のテーマは、「材料力学の基礎」としました。

詳細は以下に示しますので、奮って参加して下さい。



真剣に聞き入る講義風景



ざくばらんな懇親会の風景

## 第2回 単位とり直し講座 材料力学の基礎

機友会では、OBのための単位取り直し講座を開催します。本来なら学生時代にマスターすべき基礎科目ですが、会社に入って初めてその重要性に気がつくことがしばしばです。今回はもう一度学び直したいと思っている現役バリバリOBを対象に機械系教員が講座を開催します。もちろん学生・シニアOBも歓迎です。奮って参加下さい。第2回目は材料力学の基礎としました。

対象：機械系OB約20名

費用：懇親会費込みで会員3千円(会員未納会員5千円)

場所：早稲田大学理工キャンパス・55号館N棟2階竹内ラウンジ

日時：6月6日(土) 13時～18時、18時終了後、同じ場所で質問懇親会を開催します。

担当講師：浅川基男名誉教授、川口清非常勤講師、ほか

内容：講師が当日レジメを用意し、基礎をわかりやすく解説致します。内容は、弾性、公称応力、ポアソン比、外力と内力、荷重と応力、スカラーベクトル・テンソル、モールの応力円、降伏条件(トレスカ、ミーゼス)、残留応力、はりの曲げ、断面2次モーメント、フリーボディーダイヤグラム、SFD(せん断力分布)、BMD(曲げモーメント分布)、たわみ角、たわみ量、静定・不静定など

申し込み：機友会へE-mail : waseda-kiyukai@ktb.biglobe.ne.jp、「講座参加」とし氏名・卒業年度・所属・連絡先E-mail・機友会会員の有無を明記し5月22日(金)までにお申し込み下さい。事前に講座の内容についてご要望がありましたらお知らせ下さい)

## 機械科学・航空学科ペアレンツデー

機械科学・航空学科教授 鈴木進補

11月1日(土)に西早稲田キャンパス57号館にてペアレンツデーを開催しました。あいにくの悪天候の中、大勢(117名)の保護者の方にお越しいただき、関心の高さがうかがえました。学科教員から、挨拶、学科説明(主任、吉村先生)、教務関連説明(3年生クラス)

担任：佐藤先生)、2014年度就職実績、2015年度就職採用の説明(4年生クラス担任：森野先生)を行いました。

機友会会長 浅川先生から、機械科100年の歴史を紐解き現状を概観いただきました。半世紀前には、「寄れば大樹の陰」を是としない当時の学生の

気質、学科の方針により、大部分の学生が1社1人で120社ほどに分散して、各社、各分野をリードしていたことを保護者の方々に強調されていました。また、昨今の女子学生の躍進もたたえられていました。

OBからのメッセージとして、機友会

理事 西 圭一郎 様（平2年 機械工学科卒、JFEスチール（株））から、「身内」ならではの本音のお話を頂きました。採用活動などを通じて見受けられる、多くの学生達がついつい甘く考えがちな点を、企業一線で活躍するエンジニアが斬っていく辛口トークは痛快でした。学生時代は、まず勉強せよ、研究生活に汗を流せ、そして社会人と実際に会って話をせよ、とアドバイスを頂きました。今後機会があれば、ぜひ学生にも聞いてもらいたい内容です。

その後、見学会（工作実験室、共通実験室、コンピュータ室、熱実験室、流体実験室、製図・CAD室）、個別相談会を行いました。

今回、私は学科幹事としてペアレンツデーを取りまとめる立場になりました。また、ペアレンツデーへの出席自体、今回が初めてでした。私自身、ペアレンツデーの意義など戸惑いがある中で、学科の他の先生から、心配になる親御さんの不安を少しでも和らげるための効果があるとの説明を頂きました。ペアレンツデーを機会に学生さんの悩みが顕在化し、保護者の方と教員で情報共有することができる良い機会になっているとわかりました。学生本

人がひとりで悩んでいるのを、保護者の方が気にして相談に来るケース、また、保護者の方には本人が悩みをきちんと話しているケースが見受けられました。一方で、ペアレンツデーだけが悩み相談の機会ではないこともご理解いただきたいと思っています。総機では、機航と異なる取り組みをしていると思います。本誌を読まれている学生さん、保護者の方で何か悩み（学習、進路、経済的問題、人間関係…。）を持たれている方がいれば、ぜひペアレンツデーを待たずに、できるだけ早くクラス担任の教員、研究室の指導教員、学生相談室あるいは、授業後にでも話しやすそうな教員に相談してみるのはどうでしょうか？

以前は無かったペアレンツデーを開催するにあたり、「今 の学生は昔と違って …」とは考えていません。今にして思えば、私が学部生であった二十数年前にも、同じような悩みを抱えた学生達は少なからずいたと思います。昨今、メンタルヘルス、発達障

害、ハラスメント等への認知度が高まりました。当時は、悩みがあっても根性論的に卒業にたどり着き、問題が顕在しないまま大手企業へ就職してしまうケースも多かったかもしれません。就職後、問題が解決されていればいいのですが、そうでない場合もあり、中間管理職世代には、そのひずみが残されているケースもあるのではないかでしょうか。

最後になりましたが、ペアレンツデー実施にあたり、諸業務を遂行して下さった木村健 助手はじめ、助手・助教の皆様、齋藤研学生さんほか、デモ実験、説明を行って下さった吉村研、手塚研、佐藤研、鈴木研の学生さんたち、実験室職員の方々には心より御礼申し上げます。



ペアレンツデーに出席された先生方

## OBとして、機械科学・航空学科ペアレンツデーに参加して

JFEスチール勤務（平成4年河合研修士修了）西 圭一郎

11月1日（土）に理工ペアレンツデーが、西早稲田キャンパス57号館において開催されました。

卒業生の多くの方々は、「ペアレンツデー」という言葉の響きに違和感が大きいのではないかでしょうか。私自身も機友会浅川会長より、「OBから話を」と言われた時に初めて耳にした単語で、思わず聞き直しました。現役学生の保護者の方々を大学に招いて、学校教育や進路などについて説明し、理解いただく場のようです。

はじめに吉村教授（機械科学・航空学科主任）のご挨拶、学科の紹介、続いて学年担任でおられる佐藤教授と森

野教授からカリキュラムなどの詳しいご紹介、最新の進路関係のご説明がありました。私も高校生の子供があり、いつの間にか保護者の一人のような気持ちで聞き入っていました。ふと教室を眺めてみると、必死にメモを取る保護者（特にお母様）が大勢いることに驚きました。「親がこのくらい熱心でないと早稲田には入れないな」と今さら反省もしました。

引き続いて機友会に時間を頂いて、まずは浅川会長から機友会の組織、活動内容についてご紹介を致しました。また沢山の資料、写真を用いて早稲田機械の歴史を紹介したあたりで、よう

やく会場に笑顔が。最後に私が卒業生の一人として、学生が就職活動時に悩んでいる実例に対して、採用側の立場の本音と建前を。10分ほどですが保護者の方々に笑って聞いて頂きました。ということは書面には残し難い内容とご理解を下さい。

最後は希望された保護者の方々に対して、先生方との個別相談会や実験室見学会など多くの企画がされておりました。大学のサービスも時代と共に多岐に渡るものだと感心させられ、また先生方の運営のご苦労に頭が下がった一日でした。

# 学生から見た 藤江研究室

修士1年 加藤 陽



藤江正克教授

藤江正克研究室は2001年4月に始まり、2016年3月に15年の幕を閉じます。藤江先生は本学の機械工学科（現在は総合機械工学科）の出身であり、株式会社日立製作所にて30年間勤務された後、機械工学科の教授として早稲田大学に戻って来られました。藤江研に所属する学生の視点から研究室の特色や雰囲気を紹介します！

## I. 研究室の特色

藤江研究室には、学部3年から博士課程の学生も含め約50名が所属しています。研究室の特色として1人1テーマが挙げられます。これは学生1人1人が研究テーマを自身で探し、テーマを達成できるストーリーまで自分で考えることです。先生が企業の出身であることから、ロボットが社会に役立つことを第一に考え、「どう役に立つか」「どんな技術が必要か」という問い合わせし、学生が自分なりの答えを考え抜いていきます。

考える過程では、問題設定や解決方法に関して、物事を論理的に考える方法を藤江先生だけでなく先輩から学びます。学んだことを後輩に還元する為、学生自身が装置の使い方などを指導するだけでなく、物事の論理的な考え方から教えるという貴重な経験ができるのも特色です。まだまだ自分ができているとは言えませんが、研究を通しての成果を出すだけでなく、人として成長できる研究室です。

## II. 研究テーマ

研究分野としては、「超高齢社会」において問題となる病気や疾患を解決するために、最先端のヘルスケアロボティクスに基づく技術提案を行ってい

ます。機械工学の四力学である熱力学・機械力学・流体力学・材料力学に基づき、人間の特性をモデル化することで、ロボットの制御に活かします。具体的には、臓器の硬さや変形の仕方、筋肉や脳からの生体信号などの特性を数式で表現し、医療や福祉の現場で、医師や患者の意図を正確に読み取り、適切に支援することが可能なロボットの設計・制御手法を構築します。

前述の1人1テーマという特色から、研究テーマは多岐に渡っています。研究室に入ってきた学生が新たに立ち上げた研究テーマから、研究室全体で学ぶ機会が多いことも挙げられます。

## III. 研究室生活

藤江研究室の主な行事には、軽井沢セミナーハウスで行う夏合宿、中間発表、隔週ミーティングがあります。まず、夏合宿では、普段の研究を忘れ、スポーツやBBQを楽しむことで、学年を超えて親睦を深めます。また、先生も参加するソフトボールの試合を行うことが恒例です。

“研究”生活としては、毎月の隔週ミーティングと年3回の中間発表があ

ります。学生は毎月1回、研究室全体に対し進捗を報告する機会があります。発表練習なども含め、年間約20回発表の機会があるため、他の研究室に比べ、発表をする回数が多いです。自分の技術をより簡潔にまとめる作業を通して、自分の意見を上手く伝える方法を指導して頂いています。

## IV. 終わりに

卒業生も含めた藤江研究室所属の学生は、先生の気さくな雰囲気、笑顔に惹かれて研究室に入り、時には厳しく、時には優しい指導を受けながら、一人前になるべく研究をしています。

藤江先生の下で修士課程を修了できる最後の学年として、残された限りある時間を大切にし、これからも先生からたくさんのこと学んでいきたいと思います。研究室に興味が湧いた方はいつでもお気軽にお越しください。59号館の309号室でお待ちしております！



夏合宿の集合写真（最下段右から6番目が藤江先生、筆者は最上段右から4番目）

## 学生から見た 川本研究室

修士1年 繁田 杉

学部3年の時、私は、第一志望が通りこの研究室に入ることが出来ました。志望したといっても正直、決定的な理由は無く、なんとなく惹かれるものがあったからでした。そんな私が、これまで研究室に在籍して感じたことを、歴史、研究、人という3つの観点から、紹介したいと思います。

1つ目は、「チャレンジの歴史がある」ということです。川本研は1999年に開設され、それ以来、150人近くの学生が川本先生の指導を受けてきました。研究情報はすべてデータベースに蓄積され、例えば、プリンタ内部に適用される研究や、NASAとの宇宙技術の共同研究記録など、現在のメンバーにとって未知の体験がたくさん詰まっています。それらの系譜をたどっていくと、これまで生まれた50以上の研究テーマは、過去の研究がきっかけになっていることに気が付きます。そして、研究室への新たな加入メンバーは、これらの研究テーマを活かし、大局觀を持って、新たな研究フィールドに足を踏み入れていきます。このような川本研の研究姿勢は、新たな応用性を見出し、ワクワク感を持って研究で、クリエイティブな雰囲気を作り出しています。

2つ目は、「世界が驚く研究ができる」ということです。川本研では現在、天体上で試料を採取・搬送する技術や、試料から細かい粒子を取り出す技術、そして大気中のダストを除去する技術などをメインに、宇宙をターゲットとした研究をしています。「シンプルな仕組み」を目標にしているため、実験の実演をする際には、「どうなってるの?」と聞かれることがとても多いです。そして、それこそが、私たちの研究の醍醐

味です。他人に研究の説明をすることは難しいけれど、見せて驚かせることはできるからです。少しだけ、宇宙をイメージしてみて下さい。そこには、完成された複雑な技術があふれていると思います。だからこそ、川本研はシンプルさという切り口で攻め、世界中の人々に「What's going on?」と言わせる。そんな思いで研究を進めています。

3つ目は、「メンバーが個性を活かせる」ということです。辺りを見渡すと、実験にとことん一生懸命な人、他の人を陰で支えてくれる人、ソフトを自在にこなす人、周りを和ませてくれる人、綺麗な装置を作れる人、なぜか急にすごくやる気を出す人など、メンバーそれぞれに強みがあります。川本研では、そんなメンバーが集まり少数で班を組み、研究生活を送っています。研究を進めていく上で、いつでも仮説通りの結果が得られるわけではありません。多くの壁にぶち当たり、試行錯誤を繰り返す毎日です。そんな中、解決の突破口になるのが、メンバーの個性です。それぞれの強みが合わさることで、超



川本広行教授

えられる壁があります。個々の努力や、班内での情報共有により、例えば無重力実験での成功や、学会での表彰という顕著な成果を収めることができます。また、研究活動の他にも、合宿や忘年会、先生の誕生日会、最近では慶應大との交流会といった、様々なイベントを開催しています。これらは、メンバーが更に親しくなるための、貴重な機会です。実験室とは異なる雰囲気で何気ない話をしていくうちに、研究とは違った角度から、メンバーそれぞれの個性を見つけられるという良さがあります。

今回は、これら3つの観点から川本研について紹介しましたが、他にも多くの魅力があります。ぜひ一度、川本研にお越し下さい。あなたなりの個性で、川本研がどんなところを感じて頂きたいです。



川本研のメンバー

## ホームカミングデーの報告

機友会理事 真下 進 昭和40年卒業（松浦研）

平成26年10月19日（日）早稲田大学ホームカミングデーが行われました。機友会も例年通り早稲田大学本部7号館220教室に懇親会場を設け来場された会員各位の親睦をはかりました。今回は昭和40年、45年、55年、平成2年、12年の卒業生が午前中の式典に招待されました。午後1時には機友会会員が会場に集合し平成26年に他界された齋藤先生と井口先生に黙とうをささげました。引き続き機友会懇親会が開催され、会長の浅川基男先生が開会の挨拶をされ、続いて機友会元会長の杉島和三郎様の音頭で乾杯が行われ賑やかに歓談に入りました。つづいて理工学部の紹介が行われ、基幹理工学部長の太田 有先生と創造理工学部長の菅野重樹先生から学部の紹介が行われました。お二人とも機械工学科のご出身ということもあり和やかな中でも真剣に

聞き入る会員の姿が多かったようです。歓談はますます盛り上がり、オリーブ（佐々木洋子さん）の挨拶に引き続き出席者の中から現役の学生諸君2名を含む7名の会員の挨拶があり、続いて機友会事務局から機友会理事の石太郎さんがITSのデトロイト会議において功労賞を受賞された旨の報告があり全員で祝いました。

今回は前回の豪雨の招待日と異なり天候に恵まれ来場された方々は招待年次以外の会員も多数来られ約60名と前回の倍近い人数でした。懇親会は大いに盛り上りました。40年組は3時から理工学部63号館の馬車道での同期会もあることで機友会懇親会には大勢で参加し先

生方や研究室の諸先輩と出会い、機友会に感謝したものです。時間が瞬く間に過ぎ校歌齊唱は真下が指揮を執り全員で齊唱しました。中締めは前会長の矢吹捷一様が執り行ってくれました。

会場整理後全員で記念撮影をいたしました。次は平成27年10月18日（日）に行われます。招待年次は昭和41年、46年、56年、平成3年、13年の皆さん方です。なお招待年次でなくても機友会会員の皆様は多数おいで下さい。機友会懇親会場でお会いいたしましょう。



機友会懇親会記念写真

### 昭和41年卒の皆さん、ホームカミングデーに参加しよう

今年は昭和41年卒がホームカミングデーの招待年度である。この41年卒の同期会が1998年から数えて18回目の会合が平成27年1月25日（日）ワシントンホテルで開催された。毎年20名弱の仲間が集まり、今年もオリーブ（機友

会の佐々木さん）が参加し、花と話題を添えた。平成27年10月18日（日）のホームカミングデーには、機友会懇親会場（午後1時、早稲田キャンパス7号館2階220教室）に集まろう。その後は林郁彦先生もお招きして高田の馬場

で懇親会も予定している。問い合わせは機友会事務局まで（waseda-kiyukai@ktb.biglobe.ne.jp）。

機友会会長 浅川基男

昭和41年卒業（林研）

## 工場見学

### 工場見学（仕事見学会）の報告

機械科学・航空学科3年（宮川研）木村徳夫

昨年、10月31日に機友会主催の「第1回現役学生の仕事見学会」に参加し、東京電力の電気の史料館とJFEスチール東日本製鉄所（京浜地区）を見学させていただきました。

#### 東京電力 電気の史料館

電気の史料館は臨時休館中であるにもかかわらず、わざわざ開館していただきました。歴史的かつ貴重な発電設備や送電設備などが多く展示されていて、ひとつひとつ詳しく解説していただきました。私が所属する研究室では水力機械について研究していますが、フランシス水車発電機の実物を見るのは初めてでした。速度三角形などに基づき設計された羽根車やキャビテーションによる壊食の様子を間近で観察することができます。

き、大学の授業だけでは得られない「本物」に触れることができました。

#### JFEスチール東日本製鉄所（京浜地区）

製鉄所を見学させていただくのは初めてで、まず製鉄所の規模の大きさに圧倒されました。原料ヤードから高炉、製鋼、厚板のための巨大工場やそれらを支える発電所やインフラ設備などが所狭しに配置されていて、一つの大工場のようでした。特に、厚板工場では真っ赤な鋼を冷却しながら圧延する迫力とその鋼の温度や厚さ、工程などを俊敏かつ正確に制御するシステムに大変感銘を受けました。

工場見学の後にはOBであるJFEスチールの社員の皆様と現役学生との懇親会を開いていただきました。OBの

方々に産業界や就活、大学での過ごし方などについて熱く語っていただき、とても勉強になりました。

最後に、このような貴重な機会を提供してくださった東京電力、JFEスチール、機友会の関係者の皆様には感謝の気持ちで一杯です。厚くお礼申し上げます。



東京電力 電気の史料館

# 浅川先生ご退職記念行事を振り返って

錦古里洋介 平成8年卒（林研）

## 1. 浅川先生と研究室

1996年に林郁彦研究室を引き継ぐ形で始まった浅川基男研究室が、2014年3月先生のご退職を持って終了しました。18年間という期間は決して長い方ではありませんでしたが、歴史ある機械工学科においても、どこにも引けを取らない素晴らしい研究室だったと思います。

## 2. 記念行事の準備

浅川研究室は、毎年年次会と称してOBと現役学生が一堂に会する場を設けてきました。OB会幹事が順に準備を担当するのですが、途切れることなく続けてこられてきたのも、先生を中心にしていました。

そんな中、ごく自然にご退職に向けての記念行事実行委員会は発足し、準備を進めていきました。順風満帆であったとまでは言えませんが、幹事のみなさん、手伝ってくれた当時現役の研究室生のみなさん、ご苦労様でした。

## 3. 記念講演会

2014年4月19日、突き抜けるような青空の下、大隈講堂小講堂にて記念講演会を開催しました。特に交流の深かった東京農工大学の桑原先生、わたくしらが早稲田大学の川田宏之先生両名にお願いし、お二方の研究活動をご披露いただきつつ、浅川先生との思い出を語っていただきました。

続いて行われた先生ご自身の講演は、なんと各年代の学生たちとの研究室生活18年間を総括したものから始まりました。記念すべき最後の講演でも研究室生活を中心にお話されたことは、先生の人となりがにじみ出るエピソードではないでしょうか？ エピソードを語り始めたら止まらなくなってしまった先生は、後半にご用意されていた研究活動の原稿、数十枚をわずか2~3分で繰り返す、「ここはもういいです。聞きたい人がいたら個別に訪ねてきてください」とあっさり締めくくってしまいました。

これもまた先生らしいなと感じます。

## 4. 記念パーティ

講演会に続いて、リーガロイヤル東京にて記念パーティが盛大に執り行われました。ご来賓として、米寿を迎えた林郁彦先生も元気なお姿を見せてくださったほか、先生が特に懇意にされていた方々に来ていただきました。会場内はOB・OG達であふれ、18年間撮り続けた写真が流れる中、世代ごとに先生を交えて記念撮影を行ったりしつつ、にぎやかに進行していきました。先生は隅から隅までOBたちと歓談され、思い出話に浸っておられました。OB・OGのみなさんも、懐かしい顔ぶれに時間を忘れ、まるで学生時代に戻ったかのように楽しんでくれたことだと思います。言うまでもありませんが、佐々木洋子さんのいつものハイトーンボイスも響き渡っていました。今後も我が研究室は佐々木さんにお世話になっていく予定です。

## 5. 先生からのお言葉

林先生の乾杯のご発声で始まった楽しいひと時も、あっという間に過ぎていきました。浅川先生からのご挨拶が始まりました。とにかく教育熱心で、苦労を自ら買って出ておられた先生は、本当によく研究室でお仕事をされていました。「やりきった」という晴れやかな笑顔で、終始一貫教育への情熱に満ちたご挨拶でしたが、締めくくりは「今まで



浅川先生ご夫妻

で大学一筋の生活を温かく支えてくれてありがとう」という奥様・ご家族への御礼でした。御年70歳まで精力的に活動された先生の早稲田大学への愛情と、企業出身ならではの大学のあるべき姿を求めての活動は、すべて奥様の支えがあってのことと改めて実感しました。OBを代表して奥様に御礼申し上げます。ありがとうございました。

## 6. 最後に

2014年3月をもって浅川基男研究室は終了しましたが、研究室卒業生の交流はこれからも続いていきます。このような関係を築くことができたのも、ひとえに浅川先生のご人徳の故かと思います。OB・OGのみなさん、浅川研究室の一員であることを誇りに思い、これからも盛り上げていきましょう！最後になりましたが、浅川先生、18年間ご苦労さまでした。先生と奥様の今後ますますのご清栄を心より祈念しております。



記念写真

## 機友会で支援しているサークルの紹介です

### エコランプロジェクトTakumi 紹介

<http://takumi-acerola.chobi.net/index.html>

先進理工学部 生命医科学科2年 葵理恵



#### 君はガソリン1リットルで日本一周できるか?

エコランとは、Hondaが掲げる「君はガソリン1リットルで日本一周できるか?」をスローガンに、1981年から続く燃費競技です。実際の競技では、定められた距離(規定周回数)を規定時間内に走行し、ガソリンの消費量を計測し1リットル当たりの走行距離に換算する方法をとっています。

エコランプロジェクトTakumiは、週末や夏休みを利用してエンジンとマシンの設計、製作、調整やサーキットでのテスト走行、データの採取などを行い、毎年この大会に参加しています。2014年度は、関東大会では315.6km/Lで参加14チーム、完走7チームの中4位、全国大会では375km/Lで参加89チーム、完走57チーム中38位という成績でした。

#### エコランの魅力はこういうところ!

エコランは、自分達の持てる範囲の技術と知恵、そしてアイディアでマシンを製作し、改良を加えていくという技術的な魅力と、チーム全員で記録を目指すというスポーツ性が楽しめる競技です。また、一大学生の視点から言うと、平面上で学んだことが実際にどのように生きるのかを体験できる最高の場でもあります。私たちのチームは初心者がほとんどで手探りの状態が多いですが、やってみて失敗するという経験の積み重ねを大切にし、助け合いながら頑張っています。そして、糸余曲折を経て目標を達成できた時こそが、ものづくりの厳しさが楽しさに変わる瞬間ではないでしょうか。

#### ご支援お願いします!

私たちは、顧問の先生、理工技術センター職員の方々、機友会のご支援をいただいて活動をしています。しかし、技術面においても資金面においても、足りない部分がまだ沢山あります。私たちは早稲田大学の名前になじむ結果を残し、表彰台のトップに掲げたいと思っています。先輩の皆様のさらなるご支援をお願いできればと思っております。

#### メンバー募集中!

私たちの活動に興味を持ってくれた学生はぜひ下記のチームアドレスまでご連絡ください。

takumi.acerola@gmail.com



メンバー全員集合

## ROBOSTEP

創造理工学部 総合機械工学科 2年 ROBOSTEP幹事長 三宅章太

ROBOSTEPはNHKロボコンの優勝を目指して2013年11月に設立されたサークルで、現在NHK大学ロボコン2015の書類審査を通過しビデオ審査に向けて活動しています。

昨年6月に部内対抗戦を開催、8月にはNHKロボコン2015に向けた製作を開始、9月にF^3RC(エフキューブRC関東9大学合同のロボコン)に参加、11月に理工展に参加しました。

部内対抗戦では新入生に2年生がロボットの設計方法やプログラミングを指導しながら新入生が初めて機体を合計で5台製作し対抗戦当日にすべて動作させることができました。

NHKロボコン2015のルールが8月に発表され、テーマは「ロボミントン」。ルールはバドミントンをロボットで行うというものです。今年がはじめての参加ということもあり、ロボコンの基

礎技術の拡充を目指しつつ、ルールにのっとったロボットの開発を行っています。現在では2年生(2014年の入学生)も開発に携わりサークル全体でロボコン当日に向かっています。

9月の終わりにはF^3RCに参加しました。F^3RCとは毎年9月の終わりに1年生が参加する新人ロボコン大会です。2014年の大会では2チームが参加しました。

11月の理工展ではF^3RCで製作した機体の中で動かすことのできなかった機体の再調整をしてデモンストレーションを行いました。また6月に製作した機体の操作体験も好評で沢山の方々に楽しんで頂くことができました。

昨年は初めて1年を通した活動を行い、前例のない中たくさんの方々に支えていただき無事1年間活動を続けることができました。顧問になって頂きロボットの製作において多大なるアドバ

イスを頂いております総合機械工学科の菅野重樹先生、設立当初から支援してくださった機友会の諸先輩の方々、私たちの製作活動を支えてくださっているものづくり工房の職員の皆様、そしてROBOSTEPの活動を支えてくださっている全ての皆様にこの場を借りて心より御礼申し上げます

とともに、なおいっそうのご支援ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



理工展のデモンストレーション

## Waseda Formula Project (WFP) 2018年大会での優勝を目指しています!

創造理工学部 総合機械工学科4年 奥山優

### 初めに

2014年度プロジェクトにて皆様から多くのご支援を賜り、大変ありがとうございました。悔しさの残る結果に終わりましたが、この悔しさをバネに2015年度は一層努力いたします。今後ともよろしくお願ひいたします。

### 大会・チーム紹介

「授業で学べないことを学び、授業で学んだことを実践する」

「学生が自ら構想・設計・製作した車輌により、マーケティング・企画、コストを含めた『もののづくりの総合力』を競い、産学官民で支援して、自動車技術ならびに産業の発展・振興に資する人材を育成する」ことが大会趣旨です。授業で学んだ座学を実際に活用すると共に、設計・製作を通してものづくりの本質、そのプロセスを学び、ものづくりの厳しさ、面白さ、喜びを体得し、その経験を将来実社会で活かします。

現在チームには機械科の学生を中心

に、電気系、建築学科の学生など計13名が参加しております。

活動は、「車輌製作」、「マネジメント」、「走行試験」の三つに大きく分かれ、9月に行われる大会向け1台の車輌を開発します。

### WFPの挑戦

2015年度目標「総合10位以内」

2018年度目標「総合優勝」

2014年度は、練習走行会では全体2位、大会での8の字旋回の競技では7位の結果を残すなど、2013年度に比べ格段に車輌性能を向上させることができました。しかしながら、エンジントラブルでリタイアをし、総合48位という結果に終わりました。2015年度ではリベンジを果たすべく、信頼性の高い、そしてこれまで以上に性能を向上させた車輌で

総合10位以内を目指します。

チームの最終的な目標は2018年度大会での総合優勝です。達成に向け、着実に性能向上・チーム作りを行ってまいります。

### 新入生に向けて

クルマ、モノづくり、プロジェクト運営…どれか一つでも興味のある、または本気で何かに取り組みたい学生をお待ちしています。活動に興味のある学生は下記に連絡ください。

チームメールアドレス

waseda.fp@gmail.com



2014年度マシン



ピットとドライバーは入念に打合せ



9月の全日本学生フォーミュラ大会の走行

## WASA鳥人間 活動報告

基幹理工学部 機械科学・航空学科2年 安達正悟

早稲田大学宇宙航空研究会(WASA)は早稲田大学と日本女子大学公認でロケット・鳥人間・天文・電装の4つのプロジェクトを持つものづくりサークルです。今回はそのうち鳥人間の活動報告を行ないます。

2014年度の活動は例年とは少し異なりました。2013年8月から翌年2月まで活動をストップしたため、チームの目標を鳥人間コンテストではなく飛行場での定常飛行に定めて活動しました。機体の製作は2月24日に始まり6月14日にロールアウトしました。例年製作には5ヶ月程の期間がかかりますが

今年は製作の効率化を進めることで1ヶ月以上短縮しました。製作法に様々な変更を加えるにあたり、事前に製作テストを十分に行なったため新しい方法でもスムーズに計画を進められました。ロールアウト後は3回の試験飛行と1回の記念飛行を行ないました。初めメンバーの練度不足により上手くいかなかったものの事前・事後ミーティングの徹底によりみるみる上達しました。

最後の定常飛行を目標とした記念飛行ではこれまでの2014年度の成果をすべて出しきることが出来ました。YouTube

にて「WASA 2014 メモリアルフライト ジャンプ試験2本目」と検索すると実際の動画を見ることが出来ます。綺麗に風を掴み浮き上がった機体は周りを走るメンバーに見守られながら100m以上飛びきました。この成果は短い期間で製作・運用を成し遂げたメンバーの努力と共に、協力してくださった機友会、顧問の吉田誠先生、技術センターの職員の皆様やOB・OGの皆様のおかげです。誠にありがとうございました。

現在は2015年度の鳥人間コンテスト優勝を目標に機体製作を行っています。しかしWASAは2014年11月より活動場所が学内ではなくなってしまいました。今年は機体の製作・試験飛行の費用400万円に加えて作業場所の賃貸代として200万円を用意するためメンバーは月1万円の部費を負担しています。今後の活動のため機友会、OB・OGの皆様にはより一層のご支援ご協力をお願いします。



WASA2014

## 会員の技術経験を活用しよう！ 「知的ネットワーク」

機友会では、ホームページを利用して、会員の企業が必要とする人材を確保するために協力可能な人材を募集しています。是非、機友会ホームページを見てください。（「早稲田機友会」で検索可能）

秋号で、判り易い応募方法について解説します。

お問い合わせはメールで機友会事務局まで

## 機友会活動の原点と更なる発展に向けて

昭和42年卒 石 太郎（齋藤研）

平成27年1月11日に、リーガロイヤルホテルで故齋藤 孟早稲田大学名誉教授を忍ぶ会が催され、卒業生を中心に約150名の関係者が集まった。故齋藤孟先生を忍びつつ思い出話に会場は盛り上がった。機友会からも浅川会長をご出席いただいた。これにあわせて発行された追悼集「齋藤 孟先生を忍んで」の寄稿文に、機友会の石岡貞雄理事が「新生早稲田機友会 隊の初代会長」と題し、新生機友会への齋藤先生の思いを記述されている。齋藤先生が増えゆく早稲田機友会の会員に対してどのように役に立つ仕事ができるか、という視点から大きなパワーを出せる団体として「新生早稲田機友会」として生まれ変わりたいと行動を起こされた齋藤先生の思いが書かれている。齋藤先生がお亡くなられ改めて機友会への想いを振り返ることが、機友会理事

会でも論議しているように、これから時代に貢献する機友会活動のありかたを考えるきっかけとなっている。

活動の充実のためには、多くのやるべきことがあるが、限られた条件の中で、理事会・事務局を中心に、現役の学生、会社人になった現役バリバリOB、そして多くの経験あるOB、それに大学の先生方や関係者との連携を強くして、地道な心の通じた活動を具体的に積み上げることが必要で、王道はないようと思われる。大切なことは何が必要かどうことを認識して、それぞれが具体的に行動することである。

2014年より浅川会長の新体制となり、最近の理事会では、現役の学生、現役バリバリOB、経験のあるOBへの連携強化をするために新たな基軸で論議が行われている。浅川先生が発案された、現役学生の仕事職場見学会、単

位取り直し講座も浅川会長が経験を生かして自ら行動を起こされスタートした。2014年10月、11月に行われたが、これらは大変好評であった。このように新しいアイディアを取り入れて、現役・バリバリOB・経験あるOB間のネットワークが広っている。

また今年最初の理事会では、学生支援活動を理解促進するために学生サークルの説明会を持ち、その後現役学生との懇親会を行った。現役学生のサークル活動の現状、悩み、今後必要なこと等様々なことを知ることが出来て、お互いに充実した時間となった。このように機友会も「機械工学の発展に役に立つ機友会」となることを願って活動を積み上げている。会員各位におかれましても温かい目で活動を見守っていただき、機友会の更なるご支援を賜りたい。

## 機友会 ゴルフコンペ開催報告 秋大会

2014年

### 第33回ゴルフコンペ開催報告

昭和48卒 並木 正夫（土屋研）

平成26年（2014年）11月14日（金）絶好のゴルフ日和のもと、川崎国際生田緑地ゴルフ場において、OUT6組、IN6組の総勢45名の参加者を得て開催されました。

この会のことは以前から聞いていましたが、今回が初参加で、このコースも初めてです。ゴルフ場カートに装備されているGPSナビのシステムは良くできっていて、各ホールのレイアウトと残り距離が表示されるのに加え、スコアを入力すると参加者上位20人のスコアがランキング形式でリアルタイム表示されてプロのトーナメント気分を味わえます。

私は、機友会会长の浅川先生、後藤

さん（48卒）とOUTスタート6組目で回りましたが、OUTの7番を終えて4オーバー。ところが、ベスグロを取ったINスタートの中谷さん（49卒）が18番を終わって3オーバー、前の組を回っていた山崎先輩（30卒）が8番でイーグルを出して4オーバーというボードを見てしまったところでゴルフが狂い始めました。8番ロングホールで、ついつい力が入ってトリプル。ところがここが隠しホールでラッキーということで、グロス88も叩いたのにNET71.2となり、2位という結果となりました。さらに、1位の遠山夫人が準会員ということで、表彰規定による繰り上り優



勝で、面倒くさいことになりました。

気が付けばゴルフ歴は20年近くになりますが、これまで仕事の付合いの延長でした。先輩方のプレーを見るにつけ、ゴルフは歳を取っても続けられる趣味の一つとして、少し真面目に取り組みたいと思います。

卒業して以来、早稲田との付き合いは、リクルート活動や商議員としてのかかわり、あるいは、会社の稻門会などに限られていました。今回参加して、このゴルフコンペが機友会活動の中でも活気ある交流の場になっていると認識できたのも大きな収穫でした。その意味でも是非若い方の参加を期待したいものです。



# 秋の叙勲で、瑞宝小綬章を受章

昭和40年卒 萩須吉洋（高橋研）

現在、機友会理事と事務局を兼務している私ですが、幸いにも、経済産業省の推薦により、昨年秋の叙勲で瑞宝小綬章の受章という栄誉に浴しました。

私は、早大理工学部機械工学科では高橋利衛先生の研究室に所属し、日頃は町山忠弘先生と小泉睦男先生のご指導を受けました。大学院修士課程修了後、当時の通商産業省工業技術院の資源技術試験所へ入所、燃焼関係の研究部に所属しました。その後、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）へ出向して石炭液化技術開発を担当し、また、岡山県工業技術センターへ出向

して地域の産業振興のお手伝いをし、最後は工業技術院へ戻り地球温暖化防止関係の研究に従事しました。その後、財團法人省エネルギーセンターへ転職し、NEDOの委託による国の省エネルギー関係研究開発プロジェクトを担当しました。受章は、このような経歴を総合的に評価して功績があったと判断して頂いたものと思われます。定年後の60歳からの10年間はご縁が有って、母校の機械工学科で先輩の河合教授のお世話になり研究室と機械実験のお手伝いをさせて頂き、また国士館大学でも非常勤講師として環境工学の講義を担当しました。



このような人生が送れたのも、母校早稲田の恩師・先輩のご指導、同輩、後輩の方々のご支援のお陰と、深く感謝し、関係するすべての方々に心よりお礼を申し上げます。また、この受賞をはげみに益々母校の発展に貢献したいと思います。

## ITS\*功労者表彰を受賞して

早稲田大学環境総合研究センター 昭和42年卒 石 太郎（齋藤研）

平成26（2014）年9月7日、私はデトロイトにおける第21回ITS世界会議2014開会式で、ITS功労者表彰（ITS World Congress Hall of Fame—Lifetime Achievement Award）を受賞した。今回の世界会議では、65カ国から9,100人の参加があった。この賞は、2010年の第17回釜山大会から創設されたもので、今回で5回目となる。米国、欧州、アジアからそれぞれ1名、合計3名が受賞する。従い、私は、アジア太平洋地域の代表として推薦されたものである。今回の受賞は、日本人では第1回Award創設時（2010年）のITS Japan豊田章一郎名誉会長表彰に続き、2人目となる大変名誉な受賞であった。関係した皆様全てに感謝申し上げたい。

ITS功労者表彰は、早稲田大学の石太郎ということでの受賞であり、早稲田大学としても大変名誉な賞である。私は、受賞を受けた時に、早稲田大学の校歌にある“東西古今の文化のうしほ 一つに渦巻く 大島國の大なる使命を担いて立てる われらが行手は窮まり知らず やがても 久遠の理想

の影は あまねく天下に 輝き布かん…”という早稲田の精神の中にいるような感じに包まれ、今までの努力が報われた感じがした。

私のITS人生は、日産テネシー工場赴任から日産自動車交通研究所に帰任した時から始まった。ちょうどベルリンの壁崩壊の東西冷戦終了の頃で、軍事技術の民間転用、欧州統一に気運の中でITSが始まった。従って今回の受賞で、私は今まで20年以上ITSに関わっており、最初からITSをやっている人間としては最も古い一人だと思う。

ITSは、カーナビ、VICS、ETCで代表される交通システムで、自動車、道路、ドライバを情報通信技術によりネットワーク化し、渋滞、環境、にやさしく快適なモビリティを創出するものである。今日では、渋滞改善、高齢化の影響や人間のミスに対する安全運転支援、地球温暖化防止への貢献、自動運転、ビッグデータとのかかわりにITSが貢献する事を目指して、情報通信技術の発展と相まって、ITSへの期待が高まっている。

ITSには自動車技術の理解が不可欠



開会式におけるITS功労者表彰の受賞  
(2014年9月7日、デトロイトCOBOホール)

であり、早稲田の齋藤孟研究室での内燃機関の研究、日産時代の様々な経験が大いに役立っている。このような背景の中での今回の受賞であり、私にとってはもちろん、今ITSに関係している方々への励みになり、日本、アジア太平洋地域のITSの進展に貢献する受賞であることを願っている。

早稲田大学での勉強の成果がこのような形に結び付いたこと、早稲田大学をグローバルに印象づけることに貢献できたことを誇りに感じている。読者の皆様にご報告するとともに、今後もITSの分野での精進、そして機友会の活動への貢献を目指して努力して行きたい。

(\* ITS : Intelligent Transport System 高度道路交通システム)

# 第34回早大モビリティシンポジウム開催報告

早稲田大学環境総合研究センター 昭和42年卒（齋藤研） 石 太郎

平成26（2014）年11月15日（土）に、57号館2階202教室で、恒例の早大モビリティシンポジウムが開催された。今年は34回目の開催であるが、いつもとは違った節目となつた。それは本シンポジウムの開催母体である早大モビリティ研究会の創設と運営・活動に対して長年にわたり主導的な役割を果された、私どもの恩師、齋藤 孟名誉教授が、2014年1月2日、肺炎のため享年90歳にて不帰の客となられたことである。シンポジウム当日はおだやかな小春日和に恵まれ、土曜日の10時開催にもかかわらず、延べ300名の参加者が集まり、最後まで熱心に聴講された。

開始に当たって、故齋藤 孟名誉教授を偲び全員で黙祷を捧げ、次に大聖教授より「故齋藤 孟名誉教授を偲んで」と題し、齋藤先生の教育・研究の両面でのご業績と環境分野で果たされた社会貢献の数々、さらにお人柄にまつわるエピソードが紹介された。

その後、5つの講演、2つの特別講演、最近の早大モビリティ研究会の研究紹介が、草鹿 仁教授、紙屋 雄史教授の司会で行われた。いずれも最新の研究開発の内容で、会場は最後まで熱気に包まれた。

## ■講演（5）：

- ①「電動車両用ワイヤレス給電装置の長期運用試験結果の報告」（早大・紙屋雄史） / ②「小・中型ディーゼルエンジン用NOX,PM同時低減後処理システムの排出ガス特性について」（日野・秋吉俊哉） / ③「スカイラインハイブリッド車の開発」（日産・本杉 純） / ④「小排気量クリーンディーゼルエンジンSKYACTIVE-D1.5の開発」（マツダ・志茂大輔） / ⑤「HONDAの電動車両技術概要と次に向けた取り組みの紹介」（本田技研・山藤靖之）

## ■特別講演（2）：

- ①「トヨタ自動車の内燃機関研究開発」・「SIP革新的燃焼技術の紹介」（トヨタ・杉山雅則） / ②「世界のモビリティを変えた日本のカルチャー」（国際モータージャーナリスト・ピーターライオン）

## ■最近の早大モビリティ研究会の研究紹介（早大・草鹿 仁教授）

いずれの講演も最新の技術開発内容で、参加者とのQ&Aが活発に行われた。また特別講演や最近の研究紹介では、内閣府が主導するSIPのプロジェクト「革新的燃焼技術」の紹介、本学のリーダー大学としての参画について紹介された。ピーターライオン氏の特別講演は、「“サンキュワー・ハザード”は世界の合言葉!？」という本人の著書の紹介をしながら、体験的な日本のクルマ文化論が披露され、欧米と日本のクルマへの感性の違いが浮き彫りとなり、興味深かった。いずれの内容も、進展する自動車技術の最新情報が盛り込まれ、参加者から満足の声が多く聞かれた。

閉会の辞を石 太郎が述べ、終了後56号館地下1階のカフェテリアで懇親会を行つた。齋藤先生の思い出話、本日の講演内容について講演者との懇談、参加者間の交流等が行われ、好評を得て第34回早大モビリティシンポジウムが終了した。

今年度も11月第3土曜日開催を予定しており、事前にWMEのHP等でPRされる。



「故齋藤 孟名誉教授を偲んで」早大・大聖 泰弘教授の報告



会場風景：熱心に聞き入る参加者

## 井口 信洋 名誉教授のご逝去を悼んで

総合機械工学科教授 三輪敬之（昭和46年卒）

井口信洋先生には、昨年8月27日、享年91歳にて逝去されました。ご子息の道久さん（小泉研卒業生）から先生のご加減が芳しくないと連絡をいただき、後輩2人とともに急いで先生をお見舞いしたその日の出来事でした。会話を交わすことはできませんでしたが、先生はベッドから手を差し伸べ、温かく迎えてくださいました。

先生は、昭和22年に機械工学科を卒業されたあと、一時期大学を離れましたが、昭和42年に助教授として迎えられ、その翌年、教授に就任されました。その後、長年にわたり、数多くの創造的な開発エンジニアの育成と機械材料工学分野の発展に多大な貢献をされました。とくに、先駆的、独創的な研究として急速加熱変態や変態超塑性、形状記憶効果に関する研究を精力的に手掛けられ、国内外から極めて高い評価を得ました。その一方で、CAD/CAM、不整地走行機械、義肢装具、マイクロロボットやアミューズメントロボット関連の研究など、多岐にわたる研究を展開され、数多くの優れた業績を残されました。なかでも、60歳を過ぎてから提唱された「レジャー工学」は、心や感性を取り込んだ新しい

い工学知の重要性と必要性を示したものとして、学界、産業界に大きなインパクトを与えました。それは情報社会や成熟社会の到来に向かう機械工学のパラダイム転換ともいえるものでした。

先生のご逝去後、先生を偲んで、卒業生を中心に「井口先生に感謝する会」を昨年の11月29日に開催しました。ご遺族にもご一緒していただいた本会合は100名を超えて、井口研らしさを彷彿させる、つながりと逞しさにあふれた場になりました。以前、松下村塾や適塾のお話を先生からよくお聞きしましたが、まさに井口研とはそういう場所だったのだとこの場を通じて再認識したような次第です。研究室におけるモノづくりの足跡をたどったスライドショーでは、自由な発想と遊び心、実践的な開発能力や共創センスを生み出す先生の指導力の凄さを改めて痛感しました。井口研流という言葉を私たちはよく使いますが、それは創造的なものづくり、ことづくりの方法論として、研究室の歴史をかたどってきたものです。加えて、井口先生語録集も大変好評でした。「モノをつくらない機械科はありえない」「学生を夢中にさせるのが教育」「秋葉原に行こう!が



井口研流」「教えちゃいけないんだ」「どんな場でも自分の意見が言えるのが本当の勇気だと思うな」などといった熱い言葉を通じて、今の私たちがあるのだと思います。

井口先生、本当にありがとうございました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。最後に先生がお好きだった言葉を記しておきます。「私の上なる星をちりばめた空と私の内なる道徳的法則、私はこの二つに畏敬の念を抱いてやまない」（カント）。ここにある先生のお写真は、先生の在職期間中のご功績により勲三等瑞宝章を授与された時のものです。

## 浅井さん（機友会事務局）本当に永い間有難うございました

浅井さんは、土金さんの後を継ぎ、約14年間近く機友会事務局を支えてくださいました。

前号の41号でお知らせしましたが、現在新旧入り混じって運営していますが、もう少しこのまま続け、いずれは専従の方を決めなければと思います。今なお浅井さんの力を借りています。そこで、先日、大隈会館の楠亭にてお礼と区切りとして食事会を行いました。

（佐々木オリーブ記）



スタッフ一同（大貫、伊藤、井古田、荻須、浅川、浅井、佐々木）

## 総合機械工学科・機械科学・航空学科の在学生の皆様へ オリーブ・佐々木洋子奨学金設立について

早稲田大学元職員 佐々木洋子

私は職員として、昭和37年から早稲田大学に約40年事務職員として勤めてまいりました。勤務した箇所は8ヶ所でしたが、その中で一番想い出に残っている職場は機械工学科連絡事務所でした。ここでは昭和40年（1965年）から昭和54年（1979年）の14年間勤務しました。

当時、連絡事務所は、理工総合事務所と機械工学科との中継場所であり、教員・学部学生4年・修士課程1、2年

のための仕事をしました。その間、つらいこと、楽しいこと、いろいろありました。ある時、修士の学生さんからオリーブというニックネームを付けられました。それは、私が、ボパイの登場人物であるオリーブに容姿が似ていることと声が大きく高いことからこの愛称がつけられました。現在もその愛称で呼ばれています。退職後も機友会の事務局に勤務しており、私の体の中は早稲田色で染まっています。

大好きな早稲田大学のために何かお役立ちたいと考え、この度、在学生に思い切り勉学に励んでもらえるよう、学生のための奨学金を設立して頂きました。

奨学金の内容については、毎年両学科1名ずつで、金額は一人200,000円（予定）で長期間続けることができます。

私が早稲田大学と共に歩んできた気持が少しでもお役に立てれば幸いです。

## 齋藤 孟先生との思い出

佐々木 洋子（オリーブ）

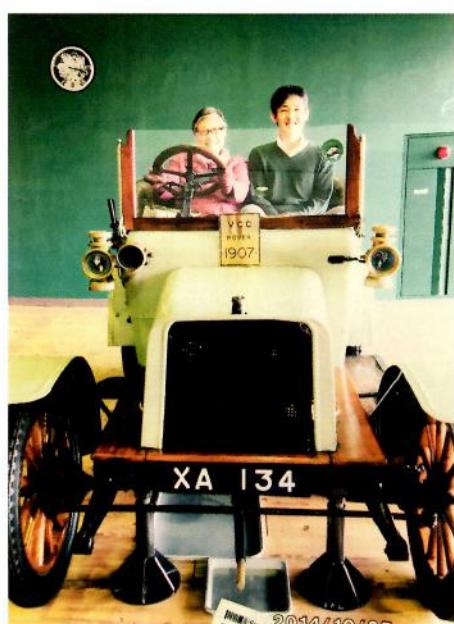
私が59号館機械科連絡事務所に勤務中、齋藤先生は58号館の研究室でしたが、いつも優しく対応して頂きました。その後、私も大学を退職し機友会で事務をしていますが、先生のモビリティ研究室も同じ55号館でしたので、よくお会いしました。また、ニュースレターの原稿も何回かお願ひし、いつも快く引き受けて頂きました。そんな中、私は2013年10月末に白血病を患

い、半年間入院しました。その後、退院して何ヵ月か後に先生が大学に見えたので研究室に挨拶に行くと、「まだ若いんだから早く元気になつて」と言って励まして頂きました。その時、私が元気になつたら名古屋のトヨタ自動車博物館に連れて行って下さいと

お願いしたら、「あーいいよー」と約束して、何ヵ月か過ぎた時、卒業生の石さんから齋藤先生が入院したと聞きました。でも、私の中では「絶対退院して来る」と思っていましたが、2014年の1月に先生が亡くなられたと連絡が入りました。大変ショックでした。葬儀に出席しましたが、多くの方々が列席していらっしゃいました。私はその後、先生と約束したトヨタの自動車博物館には絶対行こうと心に決めました。そんな気持ちでいる時、たまたま、浅川先生の退職の会に出席した時、リー



ガでお茶を飲んでいましたら、トヨタ自動車に勤務している露木君（修H24卒）がいて、齋藤先生との経緯を話しつ是非行きたい」とお願いしました。そして、昨年10月24日25日の一泊二日で西村君（修H24卒）二人の王子様と3人で行つきました。トヨタ自動車博物館は1階が外国車の展示で、特に1800年代のヨーロッパの車が素敵でした。2Fは、トヨタ車と日本車が展示されていて、車の歴史を知ることが出来ました。見てきたことを先生にお話しすることが出来なくて非常に残念に思っています。先生のご冥福を心よりお祈りします。



## 「しおちゅうの会」を機友会後援行事に

機友会会长 浅川基男

理工総研NIKEプロジェクトの一環として、航空宇宙産業懇話会（略称は頻繁に開催するとの意味で「しおちゅう会」）が毎月末の金曜日に開催されている。現在まで航空運行会社（全日空、日本航空ほか）、航空機製造会社（エアバス、三菱重工）、川崎重工、IHIほか）、研究・支援期間（JAXA、経産省ほか）の講演と質疑応答を重ね、既に5年以上継続し、情報の収集、人脈の形成で大いに貢献してきた。

プロジェクトの終了後は鈴木進輔先生が機航を代表してこれを支え、現在では社会人のみならず、学生も出席するようになり竹内ラウンジに毎回30人を超えるほどの盛況ぶりである。この行事を機友会として今後サポートし、ニュースレターやホームページでも広報することにした。本年初回（1月23日（金））のしおちゅう会は、機航主催・機友会後援で全日空社長の篠辺修社長（昭和51年河合研卒）をお招きし、500名ほどが参集、学生から矢継ぎ早の質問が多く、懇親会も含め活発な会合となった。



講演者との懇親会会場



社会人と学生で埋め尽くされた大教室

## サポート費のご協力有難うございました

2014年9月1日より2015年1月31日の間に故 斎藤孟先生からのご寄附を含め、下記の方々より総額 1,349,250円のサポート費のご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。サポート費の運用につきましては、特に学生に対し、サークル活動、オリエンテーション支援、奨励論文賞など充実した支援を計画しております。

今後とも皆様方の更なるご支援・ご協力をお願いいたします。

### サポート費協力者

卒年	氏名
昭和20年	故 斎藤 孟
昭和17年	鎌田栄太郎
昭和21年	吉田 至
昭和22年	石澤 和夫
昭和25年	林 郁彦
昭和26年	増田 次郎
昭和27年	杉島和三郎

卒年	氏名
昭和27年	新井 保文
昭和27年	田中 昭治
昭和29年	久保田清三
昭和32年	館野 純三
昭和32年	堤 泰彦
昭和32年	江口 昌典
昭和32年	荒金 昭夫

卒年	氏名
昭和32年	坂口 進
昭和33年	櫻井 治男
昭和33年	香川 達雄
昭和33年	大淵 昭
昭和33年	匿名
昭和33年	渕上惣一門
昭和33年	行天 宏

卒年	氏名
昭和34年	山口富士夫
昭和35年	野池 敬三
昭和35年	大西 正純
昭和36年	健友会
昭和39年	高橋 俊就
昭和40年	加藤 泰昭
昭和40年	福島 昭造

卒年	氏名
昭和40年	40年度卒業生一同
昭和40年	荻須 吉洋
昭和42年	石 太郎
昭和50年	鈴木 一彦
昭和51年	藤井 康裕
事務局	佐々木洋子

合計 1,337,750円

### 公認サークル支援 サポート費協力者

卒年	氏名
昭和28年	金井 史郎
昭和51年	藤井 康裕
平成21年	安部 成能

合計 11、500円  
(敬称 略)

## 会員 計 報

2014年9月23日以降 下記の会員の方々の計報についてご連絡がありました。

ここに、謹んでご冥福をお祈りいたします。（敬称略）

2015.2.2 現在

卒年	学歴	氏名	逝去年月日
昭和12年	機械	皆見 繁秀	2013.11
昭和16年	旧機械	奥村 敦史	2015.1.31
昭和17年	旧機械	古山 利泰	2014.5.17
昭和21年	旧機械	染野富士雄	2008.9
昭和25年	旧機械	林 一	2013.2.23
昭和26年	旧機械	松川 行雄	2013.1.1

卒年	学歴	氏名	逝去年月日
昭和26年	旧機械	福田 由男	2012.4.23
昭和26年	旧機械	市村 謙輔	2013.10.11
昭和27年	一機械	谷口 裕康	2014.11.21
昭和27年	一機械	松野 栄次	2014.3.22
昭和28年	二機械	山本 信一	2013.6.10
昭和28年	二機械	松下 茂	2010.9.26

卒年	学歴	氏名	逝去年月日
昭和29年	一機械	根本 英俊	2014.6.19
昭和30年	二機械	井守 恒雄	2014.5
昭和34年	一機械	三浦 昭夫	2014.9.30
昭和35年	二機械	冨士本茂男	2014.8.19
昭和35年	二機械	古川 春海	2015.2.5
昭和36年	一機械	浅尾 克治	2015.2.19

卒年	学歴	氏名	逝去年月日
昭和40年	機械	尾方 俊史	2014.10.14
昭和46年	機械	樋口 享	2013
昭和49年	機械	中島 裕	2014.11

## 事務局からのお知らせ

### 機友会総会のお知らせ

今回は総会に先立ち新理工学術院長に就任された大石進一先生が早大理工の新しい展開を熱く語られます。多くの会員のご来場をお待ちしています。

記

日 時：平成27年5月16日（土）午後1時～

特別講演：大石進一理工学術院長

会 場：55号館第三会議室（西早稲田キャンパス）

懇親会：56号館地下 生協カフェテリア

（会費3000円、学生は無料）

### 第34回 機友会ゴルフ大会開催のお知らせ

日 時：平成27年5月14日（木）集合8:00 スタート8:30

会 場：川崎国際生田緑地ゴルフ場

費 用：20,360円（プレー費16,360円 参加費4,000円）

申込先：機友会事務局 TEL/FAX：03-3205-9727

E-mail：waseda-kiyukai@ktb.biglobe.ne.jp

\* 準会員として奥様やご家族のご参加も可能です。また、親睦会員として競技とは関係なく体力とご相談の上マイペースでの参加も可能です。

\* 同期の方、または卒業生に広く声をかけていただき1人でも多くの方のご参加をお待ちいたします。

## 住所・E-mail 等の変更のあった時にはご連絡ください

機友会事務局では、会員約25,000名の方々のデーターを管理しておりますが、約4割の方々の情報が把握されていません。また、事務局から発送する郵便物が受取人不明のため返送されることがたいへん多くなっています。個人情報保護法の問題もあり、確認が極めて困難になっています。

たいへんお手数ですが、住所、勤務先、E-mail等の変更が生じた時は事務局までメールまたは、お電話で知らせください。よろしくお願いいたします。

## 機友会ホームページをご覧ください

事務局からのお知らせとして、総会・見学会・イブニングサロン、その他催事等のご案内、また発行済のニュースレターを掲載しています。是非ご覧ください。

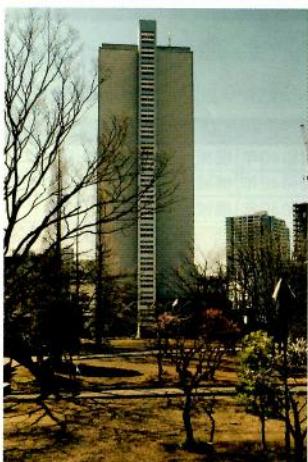
<http://www.kiyukai.mech.waseda.ac.jp>

## 32年卒機友会懇親会のお知らせ

例年通り4月及び10月の第3火曜日13:00より、表記の懇親会を開催します。会場は理工キャンパス55号館竹内ラウンジです。

詳細は幹事の江口、石岡、石浜、大石、西野入の方々にお聞き下さい

(事務局より：昭和32年卒の機友会懇親会の通知を7年間掲載してきましたが、今回で終了します。但し、会合は従来通り引き続き開催されます。)



新装になった中庭



桜満開風景（一年前）

### 編集後記

浅川新会長の方針の下、機友会と現役バリバリOBとの接点を増大する為の各種企画が実行され、着実に成果が上がってきてています。今回は、こうした企画の報告や、大学内の各種行事、学生さんからの報告等充実した内容となっています。機友会が会員の皆様にとって魅力ある組織となる様、有益な情報の提供に努めて参りますので、今後共ご支援の程お願い致します。

また、これ迄長い間事務局を担当していただいた荻須さんは昨年退任予定でしたが、もうしばらく事務局を担当してもらうことになりました。

(編集担当理事 浜野雅夫)

## 会費納入についてのお願い

### 会費納入について

機友会の活動は皆様からの会費を財源に運営されています。会費納入について、是非皆様のご理解、ご協力をいただきたくよろしくお願ひいたします。

会費は1年間分 3,000円 4年間分 12,000円

会費納入については当年から郵便局または下記銀行からお振込みください。

### ※銀行からの場合

三菱東京UFJ銀行 新宿通支店 普通口座 №2460079

お振込みの際は同姓同名の方がいますので卒年・氏名・フリガナを必ずご記入ください。

### ※郵便局からの場合

ニュースレターに同封されている振込用紙でお振込み下さい。会費免除の方、前納されている方、口座振替の方には、サポート費の振込用紙を同封しています。どうかご支援を賜りたくよろしくお願ひいたします。

### ※当年度から会費を払う場合

今まで会費納入されていない方が遡って納入される場合がありますが、当年からの会費をお振込ください。

### 会費納入の自動引落し窓口を開設しています。

会費納入に振込みの手間がかからない銀行口座自動引落しの窓口を設けています。

会費は1年間2,750円と少しだけお安くなっています。

ご利用される方は申込み用紙をお送りしますので事務局までご連絡ください。

口座自動引落しは毎年4月18日（休日の場合は翌日）となります。たとえば5月に申込みをいただいたても、翌年の4月からとなります。

### 機友会事務局

月、火、木、金の10:00～16:00

荻須、伊藤、井古田、神原、大貫、佐々木

〒169-8555

東京都新宿区大久保3-4-1

早稲田大学理工学部内55号館S棟2階

電話 03-3203-4141(大代表)

内線73-5252

TEL/FAX 03-3205-9727(直通)

E-mail waseda-kiyukai@ktb.biglobe.ne.jp

### WME ニュースレター 第42号

発行元 早稲田機友会編集委員会

佐々木、荻須、石、浜野、真下

印刷 神谷印刷株式会社

〒171-0033 東京都豊島区高田1-6-24